

地方創生交付金に係る事業実施結果報告
(重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

交付対象事業の名称	交付金の種類	実績額 単位:円	本事業における重要業績評価指標(KPI)				本事業終了後における実績値		外部有識者からの評価		実績値を踏まえた 事業の今後について	
			指標	目標値(R3)	単位	目標年月	実績値(R3)	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由
事業承継推進事業 (事業期間:令和元年～令和3年度)	推進交付金	26,699,732	指標①	大鰐温泉もやし生産量	79,521	束	R4.3	76,757	地方創生に効果があった	町の魅力や特産物等の情報発信を工夫し、引き続き町の関係人口(交流人口)を増やす必要がある。	事業の廃止	大鰐温泉もやし生産量については、コロナ禍により販売機会が減ったため、生産量が減少。しかし、新規取引店の獲得やマスコミ取材の受入など、販路強化の取組みは行ったため、今後コロナの収束とともに、その成果が生産量にも結び付くものと期待される。 事業承継の件数については、KPIを達成できなかったが、老舗店舗の事業承継に向けて展開する店舗の事業内容の検討など準備ができた。 事業承継推進事業については、町の事業としては終了となり、今後は「大鰐まちづくり笑社(株)」が引き継ぎ、地域活性化を目指す。
			指標②	事業承継の件数(累計)	2	件	R4.3	0				
			指標③	大鰐ファンクラブの人数(累計)	77	人	R4.3	94				

第2期 大鰐町総合戦略 効果検証結果

【R3年度末時点での評価】	※評価項目について
各事業に対するR3年度末時点における評価	【R4年度以降の方向性】
◎：目標値以上または十分に達成	各事業に対するR4年度以降の方向性
○：目標値と同等または達成	拡充：取組内容の深化・発展を図る
△：目標値未満または達成せず	継続：取組を前年度と変わらない内容で継続する
×：進捗なし・事業終了	縮小：取組内容を縮小し、継続する
	見直し：取組内容の見直しを図る
	廃止：取組を廃止する

※評価項目について	
【R3年度末時点での評価】	【R4年度以降の方向性】
各事業に対するR3年度末時点における評価 ◎:目標値以上または十分に達成 ○:目標値と同等または達成 △:目標値未満または達成せず ×:進捗なし・事業終了	各事業に対するR4年度以降の方向性 拡充:取組内容の深化・発展を図る 繼続:取組を前年度と変わらない内容で継続する 縮小:取組内容を縮小し、継続する 見直し:取組内容の見直しを図る 廃止:取組を廃止する

基本目標	基本的な方向性	数値目標	数値目標実績	施策	重要業績評価指標(KPI)	重要業績評価指標実績(KPI)	主な取組	評価項目		これまでの施策展開の成果・効果検証		今後の取組
								R3年度末時点での評価	R4年度以降の方向性	町検証	総合戦略推進協議会意見	
3 大鰐町の魅力を高め わがふるさとの創出	誰もが住み慣れた地域で、みんなで支え合い、心身ともに健康で自分らしく安心して暮らすことができる「地域共生社会」を推進するとともに、ふるさとの魅力アップやふるさと教育を拡充し、定住性やふるさとへの回帰性を高めていく。	○町平均寿命の全国との格差 H27 男2.5歳 (町78.3歳、国80.8歳) 女1.3歳 (町85.7歳、国87.0歳) ↓ R7 男女ともに縮小	○町平均寿命の全国との格差 R3 未公表	① 安全・安心なふるさとづくり ② ふるさと魅力アップ	○特定健診受診率 H30 46.0% ↓ R7 60%	○特定健診受診率 R3 44.0%	○地域共生社会の推進 ・コミュニティ活動支援事業	○	継続	健(検)診未受診者や健(検)診精密検査未受診者対策を強化していく必要がある。住民の安全安心な生活を維持するため、関係機関のネットワークや、福祉安心電話等機器を活用した緊急時の把握など、見守り体制の整備がされている。 デマンドバスの新規会員数は、2年度と比較すると減少したが、運行本数及び利用者数は横ばい傾向のため、地域住民の足として認識され、利用されている状況である。	検診未受診者対策として大腸がん検診未受診者への個別受診勧奨を行うとともに、がん検診精密検査費用助成を実施し、がん検診及び精密検査受診率向上を図る。また、おおわに健康情報便の発行により、健康に関する情報の周知を行う。 利用者のニーズを把握し、停留所の見直しやダイヤ改正など、そのニーズを運行に反映することにより、利用者の確保維持、新規利用者の増加を目指す。	
					○各種がん検診受診率 H30 胃がん:23.1% 大腸がん:23.4% 肺がん:20.3% 子宮頸がん:31.0% 乳がん:30.9% ↓ R7 胃がん:40% 大腸がん:40% 肺がん:40% 子宮頸がん:50% 乳がん:50%	○各種がん検診受診率 R3 胃がん:21.8% 大腸がん:24.0% 肺がん:20.1% 子宮頸がん:35.5% 乳がん:33.2%	○平均寿命を1歳延ばそうプロジェクト ・健康イベント事業 ・健診・がん検診事業の拡充 ・健康の日の推進等 ・高齢者予防接種推進事業	○	継続 拡充 継続 継続			
		○デマンドバス新規会員数 H30 23人 ↓ R7 25人	○流融雪溝の整備延長 H30 10,077.7m ↓ R7 12,900m	○安全・安心な医療体制の整備 ・新診療所整備事業 ・医療確保対策事業	○	継続 継続	○安全・安心な防災対策 ・防災対策事業	○	継続	○公共交通の活性化 ・公共交通活性化事業	○	
					○安全・安心な防災対策 ・防災対策事業	○			継続			
		○ふるさと納税者数 H30 913人 ↓ R7 2,000人	○町イベントに参画した子どもの数 H30 200人 ↓ R7 300人	○ふるさと魅力アップ ・魅力発信事業 ・スキー育成環境整備事業 ・ふるさと納税推進事業 ・事業承継推進事業 ・文化団体等育成支援事業	○	継続 継続 継続 廃止 継続	○ふるさと魅力アップ ・魅力発信事業 ・スキー育成環境整備事業 ・ふるさと納税推進事業 ・事業承継推進事業 ・文化団体等育成支援事業	○	継続	○ふるさと納税者数について、2年度はコロナ禍による在宅時間が増えた影響から一時的に増加したが、3年度は減少。継続的な返礼品の更新を図るとともに、町の魅力について情報発信を強化し、KPIの達成を目指す。 コロナ禍によりイベントがほぼ開催できなかったため、町イベントに参画した子どもの数は少人数であった。コロナ収束後に向け、子ども達の参画意欲を高めるイベントの開催方法と内容の見直しが必要である。 スキー育成環境整備事業について、町内在住の小・中学生に対し、大鰐温泉スキー場のリフト引換券を配布することにより、スキーに親しむ環境を整え、児童生徒のスキー振興を図った。	ふるさと納税者数のKPI達成のため、「体験もの」や「サービス」を返礼品として取り扱うなどして、返礼品の多様化を図る。普及率の高いSNSアプリを活用し情報発信するなど、ふるさと納税情報も含め、町全体の情報発信の強化を図る。 子どもの参加意欲を高めるイベント内容に見直しを図るとともに、親子で町の魅力を体験できる機会を増やすし、子育て世代にも町の良さを再認識してもらう。	
					○町イベントに参画した子どもの数 H30 200人 ↓ R7 300人	○町イベントに参画した子どもの数 R3 33人		継続				

※評価項目について	
【R3年度末時点での評価】 各事業に対するR3年度末時点における評価 ◎:目標値以上または十分に達成 ○:目標値と同等または達成 △:目標値未満または達成せず ×:進捗なし・事業終了	【R4年度以降の方向性】 各事業に対するR4年度以降の方向性 拡充:取組内容の深化・発展を図る 継続:取組を前年度と変わらない内容で継続する 縮小:取組内容を縮小し、継続する 見直し:取組内容の見直しを図る 廃止:取組を廃止する

基本目標	基本的な方向性	数値目標	数値目標実績	施策	重要業績評価指標(KPI)	重要業績評価指標実績(KPI)	主な取組	評価項目		これまでの施策展開の成果・効果検証		今後の取組	
								R3年度末時点での評価	R4年度以降の方向性	町検証	総合戦略推進協議会意見		
4 新しいひとの流れによる“にぎわい”的創出	若者が住みよい住環境や、Uターンを促進していくとともに、町の各種資源を最大限活用し、官民協働によるまちづくりの推進や国際交流を推進することで交流人口の拡大を図り、地域への波及効果を高めていく。	① 住みやすいわがまちづくり	○移住相談件数 H30 3件 ↓ R7 10件	○移住相談件数 R3 14件	○I・Uターン支援 ・移住促進事業	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○	継続	弘前圏域移住交流推進事業として、合同のオンライン移住セミナーに参加したほか、PR媒体となるパンフレットを作成。また、移住を希望・検討している方のための受入体制整備として、おためし居住体験事業を実施。	移住・定住につながる取組みの充実を図っていただきたい。また、それらの情報発信も積極的に行う必要がある。	I・Uターン支援として、引き続き弘前圏域移住交流推進事業により、移住相談体制の充実を図る。また、おためし居住体験などの情報を県内外へ広くPRすることにより、移住相談件数を増やし、移住定住促進につなげる。	
			○純移動数(転入一転出) H30 転出超過81人 ↓ R7 現状より減少	○純移動数(転入一転出) R3 転出超過58人	○空き家・空き地バンク登録件数 H30 0件 ↓ R7 10件	○空き家・空き地バンク登録件数 R3 5件 累計 8件			継続	空き家等家財道具等処分補助金の補助要件として、空き家・空き地バンク登録を求めた結果、登録件数が伸びた。			
		② にぎわいづくり	○宿泊客数 R2 25, 228人 ↓ R7 31, 000人	○宿泊客数 R3 38, 930人	○住民参加型まちづくり事業申請件数 H30 0件 ↓ R7 10件	○住民参加型まちづくり事業申請件数 R3 8件			継続	住民参加型まちづくり事業により、町内団体が主体的に取組む活動を支援した。	住民参加型まちづくり事業補助金の申請にあたり、審査会におけるプレゼンテーションを必要としていたが、書類申請のみ(プレゼンテーション不要)の部門を設け、誰でも申請できる環境を整えることにより、KPI達成を目指す。		
			○国内宿泊客数 R2 24, 248人 ↓ R7 30, 900人	○国内宿泊客数 R3 38, 903人	○資源・人材を活かしたにぎわいづくり ・公園整備・運営事業 ・各種イベント活性化事業	○街なか商店活性化支援 ・まちあるき推進事業			継続	新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊客数は低迷した状態が続いているが、さまざまなコロナ対策事業により、町経済にも一定の効果をえた。	キャンプ場の受付について、電話予約だけでなく、ネット予約も可能にするなど、デジタル化をもっと進め、利用者の利便性を高める必要がある。	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた町内の経済回復のため、まずは域内観光に重点を置き、県内、国内観光客増加に向けた取組みを企画、実施する。	

※評価項目について	
【R3年度末時点での評価】	【R4年度以降の方向性】
各事業に対するR3年度末時点における評価	各事業に対するR4年度以降の方向性
◎:目標値以上または十分に達成	拡充:取組内容の深化・発展を図る
○:目標値と同等または達成	継続:取組を前年度と変わらない内容で継続する
△:目標値未満または達成せず	縮小:取組内容を縮小し、継続する
×:進捗なし・事業終了	見直し:取組内容の見直しを図る
	廃止:取組を廃止する